

球団スタッフ一丸で選手をサポート 例年にはない野球の面白さも見て欲しい

6月19日、やっと開幕したプロ野球。新型コロナの影響は今後も予断を許さないが、異例の事態となった今季について、矢野博也中日ドラゴンズ球団社長に聞いた。（聞き手／中部財界フォーラム社代表取締役塚本隆・取材日6月12日）

——コロナ禍で各球団とも未曾有の状況で、
経営的にも大変だと思いますが？

矢野 例年、1、2、3月は開幕前のためほぼ収益はありません。今年も2月の沖縄キャンプでは、松坂選手退団の影響は懸念していましたが、グッズの売り上げは昨年を上回りコロナ禍もここまでの大事になるとは考えていませんでした。ところが3月20日の開幕が延期となり3、4、5月は試合ができずに無収入。コロナ対策専門委員の意見を参考にNPB（日本野球機構）と各球団とでロードマップを作成、6月19日に開幕としました。7月9日までは無観客、10日からは上限5000人までの入場が可能となりますが、ナゴヤドームの収容人数からすると7分の1以下です。状況が良くなれば8月には50%（1万8000人）まで緩和される予定です。その後は今のところ未定ですが、制限無しで入場してもらえるかは「コロナ次第」です。第2波の可能性もあり名古屋は安全でも他の開催都市で悪化していれば試合はできません。有難いのは試合ができさえすればテレビなどの放送収入が入ることですが、収入の根幹である入場料は、球場で選手達の活躍を直に見て応援できる環境にならなければ大きくは見込めません。グッズも同様。今年は何の球団も大赤字覚悟、来年に備える年になると思います。興行はお客さまが安全と安心を心と体

で感じていただき日々の生活にゆとりができて成り立つものだと思います。

——無観客では出費が増えるだけですね。

矢野 経費の方は試合がない分の球場使用料や遠征費、運営費は発生していませんが、試合が始まれば当然掛かる経費です。（こういう非常事態では）大リーグの契約には特約事項があり年俸カットが可能です。日本はNPBの統一契約書で各球団が選手と契約。その契約書には疫病などの特約事項はありませんので、選手の年俸は払わざるを得ません。来シーズンからはこういう事態も想定した契約を考えなければなりません。

——無観客ゲームも新鮮な面があります。

矢野 「ブンッ」というバットを振る音や、キャッチャーミットに当たる「バシッ」という音、掛け声も臨場感があり、新たな魅力かもしれません。球場の雰囲気は観客によってつくられていたことがよく分かります。当たり前の日常が大切なことを選手もよく分かったと思います。

——シーズン中も選手の感染対策が大事ですね。

矢野 もともと体調管理はしっかりやっていて、沖縄キャンプでも今までもインフルエンザ対策として検温やうがい手洗いは遵守しています。ホテルでは朝食時には体重測定、検温を記